



この町で、この地で笑って老いたい ~そのために今すべきこと~

【まち協だより】

令和5年12月下旬号

発行: 山上まちづくりの会

電話(FAX) 82-0933

●山上まちづくり懇談会開催

まちづくり懇談会が11月30日(木)に山上地域振興センターで開催されました。行政より中村町長・角井副町長・青戸教育長ほか7名の町職員を迎え、総勢26名の参加でした。

山上地域の人口は、2004年のまちづくり協議会設立初期は787人でしたが、2023年には314人減り473人となっています。人口が減る中で、まち協組織の運営は設立初期と同じようにはいかなくなっています。そこで今年度は日南町全体の地域テーマ「みんなで乗り越えよう! 地域活動組織の曲がり角」と、山上の地元提出テーマ「山上地域の災害時避難ビジョンについて」の2つをテーマとして課題を話し合いました。

【課題】 町内でよく聞かれる課題は、以下のようなものがあります。(懇談会用に役場で制作した資料より)

- 一人の人が複数の役職を掛け持ちしている。
- 活動の中心が60代70代だが、今後さらに高齢化が進んでいきそう。
- 役員の固定化。
- 災害時には地域の結束が必要。
- 自治会の統合が必要かも(反対に合併は難しいとの声も)。
- 役職が多い。会が多い。
- 集まりは大事だが、個人を優先する人が増えている。
- 役員でないとまち協の活動が見えない・わからない。



【意見】 懇談では「災害時に山上のどこでも携帯の電波が受信できるよう通信電波整備をすること」や「災害時にはとにかく近所同士で助け合うこと」などが話題にあがりました。災害時に近所同士で助け合うことの一例として移動手段がない方や身体が弱っている方は、遠くの避難所におかわず、まず固定電話のある安全な近所の家に集まることも選択のひとつです。

【具体的提案】 現在の日南町防災訓練では自治会別訓練をしていますが、例えば茶屋自治会は安全な地域が多く【レベル3高齢者等避難】の放送が流れても自宅待機していたほうが安全な場合も想定されます。

また、矢原地区県道沿い山側などは危険地域に指定されていませんが危険な箇所もあります。テレビなどで大雨・洪水警報(警戒レベル2)が放送された時は、日南町防災無線で高齢者等避難(警戒レベル3)の放送が流れる前に、貴重品や短時間の空腹を満たすため食べかけのお菓子でもいいので携帯できる食べ物を準備し持ち出せるようにしておくことが大切になるとの意見も出されました。

屋外に出たら携帯電話が繋がらない場所もあります。少子高齢化や日中は仕事で山上地内にいない人も多くなり、災害時に実際に動ける人の絶対数が不足しているため、自治会間の防災協力体制の再構築も望まれるという意見も出されました。



※ 一部携帯会社において、具体的な時期は不明ながら衛星を活用したショートメッセージや通話ができるように、計画が進められていると役場より情報提供がありました。

【連載予告】 令和6年1月号からまち協だより裏面にて“山上教育の父”内藤岩雄さんの伝記小説を連載します。是非ご覧ください。

